

法幢院 寶授院 だより

第二号

平成23年 冬号

発行所 法幢院
宝授院
宗教法法人

発行人 松山典嗣
甲州市塩山上萩原94

☎ 0553 (33) 2092
Fax 0553 (33) 7772

(年2回発行)

幢幡の高さ調節工事を

おこないました

本堂中央にあります四ヶ所の幢幡の高さ調節工事を十月二十九日から白川邦男様にお願いました。

細かく計測し、ひとつ三十キロを超える幢幡を慎重に移動。天井板を外し、高さを作るための板を組み、数ミリ単位で作業を進めていただきました。

この工事により、幢幡は以前より約二十四センチ引き上げられ、十一月三日に工事が無事完了致しました。



坐禅会をはじめました

八月より坐禅会をおこなっております。開始時刻には、外もまだ薄暗く、参加人数も多くありませんが、静寂の中、坐禅を組んでおります。

毎月第三日曜日、十一月から三月までは冬時間で午前六時より本堂にておこなっております。(四月から十月までは夏時間で午前五時半より禅堂にておこないます。)

坐禅会では、坐蒲(ざぶ)の座り方・足の組み方を説明し、坐禅を約四十分間組み、その後、朝課をおこないます。そして参加された方全員で五観の偈をお唱えし、朝粥をいただいた後、散会という流れでおこなっております。どうぞ皆さま、気軽にご参加下さい。



坐禅会の様子と朝粥

総代会のご報告

九月二十五日に総代会を開催致しました。

・来年四月に寶授院住職・松山典嗣が法幢院の住職申請を宗務所へ提出できる事から、住職への就任に総代会として全員賛成、承認。

・また、住職就任から三年以内に晋山式を執りおこなう必要がある事から、日程の目途を考えていく。

・晋山式に伴い、駐車場を作り、車の進入・退出路を確保する。また寺にて葬儀が出来るように整備を進めていく。

以上の内容が話し合われました。

本堂裏の竹林整備

十二月十日、法幢院・寶授院の本寺であります永昌院様ご協力のもと、本堂裏の竹林を整備いたしました。

作業は永昌院住職・堀内正樹様、副住職・堀内正学様、庭翔の工藤様にお手伝いいただきました。

毎年、竹に降り積もる雪が本堂の屋根にかかってしまうため、その対策として今回竹林を整備いたしました。

また、竹や檜の手入れだけでなく、楓などを生かした竹林の環境作りについても教えていただきました。



総代による寺周辺及び

境内の清掃を実施

十二月十一日、残雪が残る寒さの中午前九時から総代の方々による寺周辺及び境内の清掃がおこなわれ、懸命に作業をしていただきました。

本堂や墓地、鐘楼等にかかる竹や木の手入れ、雨どいの掃除・点検などの作業をしていただきました。

今回の清掃にご協力下さいました方々にあらためて感謝いたします。

禅堂の屋根及び

手桶棚の塗装工事

禅堂出入り口の屋根及び、手桶棚・ひしやく入れの塗装工事を、十月三日から田辺塗装様(田辺紀一様)にお願いしました。

また高圧洗浄機により、境内・参道等をきれいにさせていただきました。

大本山總持寺御移転百年

報恩法会参拝研修へ参加して

岩波組 岩波 守和

今回、九月五日・六日と曹洞宗山梨県宗務所主催による總持寺参拝団の一人に加えていただいた。能登にあつた總持寺が横浜の鶴見に移転され、今年で百年。そんな節目の年にあたり、催される報恩法会に臨んでくるのが参拝の趣旨であり、しかも今年の四月に就任した新貫首が山梨県出身の江川辰三師であることから、山梨県の曹洞宗挙げての参拝になったのである。曹洞宗では二人の宗祖が尊ばれている。お釈迦さまと共に尊崇し「一仏両祖」と言うそう。おひとり、言うまでもなく道元禪師。もうおひとりは、積極的に民衆へ布教し、能登に總持寺を開山した瑩山紹瑾(けいざんじようきん) 禪師である。

復興のみでなく、曹洞宗存立の意義を深慮し、めざましく発展する新都にこそ宗門の中心を築くという決断を下し、一九一一年(明治四十四)年十一月、横浜市鶴見区に移転。今年に移転後、百年を乗り越えてきた年を迎える。談合坂SAでバス三台が合流し、百名を超えるにぎやかな山梨県参拝団一行となる。鶴見駅前を過ぎると、總持寺の参道が延びる。入山し、若い雲水の案内で境内を回る。能登での大火の経験を生かし、広い緩衝地を設けて伽藍を配置し、それらをつなぐ廊下が延々と延びていた。

休憩をはさんで、いよいよ大祖堂で貫首が主宰する法要が始まる。千畳敷の堂内には瑩山紹瑾禪師始め歴代の祖師方が祀られている。祭壇を向いて、中心に第二十五世江川新貫首が位置し、總持寺に任持する僧侶が左右に並び、その後ろに今回山梨県から上山した僧が座り、その中に松山典嗣師の姿も見える。法要は三十分以上も続いた。法要が終わり、江川貫首はマイクを握り語りかける。「この四月に貫首になったほやほやの一年生である。私も四十歳代まで山梨で過ごした。山梨県曹洞宗宗門、檀信徒の安寧と発展を念じている」と私たちを励ましてくれた。

苦難が続いたこの百年を乗り越えさせてくれた仏恩に合掌。そして、東北の深い悲しみに手を合わせる。堂内には、未だ重く凜と響いた余韻が残り、東日本大震災は身もたえするような国難ではあるが、諦めてはいけないう論してくれる。衆生の祈りを温かく見詰めていた大祖堂は再び静寂を取り戻していた。

● 除夜の鐘

十二月三十一日(土)

午後十一時四十五分より

守矢、ダルマ等の販売や温かい飲み物などを用意してお待ちしております。また先着一〇八名様に干支の縁起物を記念品にご用意しております。

ご家族様お揃いでお出掛け下さい。

● お年始回り

一月四日(水)、一月五日(木)に

お伺いいたします。

※喪中のご家庭につきましては、お伺いしません。十六日の寺参りの折にお札等、お渡しいたします。

● 新年寺参り

一月十六日(月)

午前十時・午後三時より

本堂にて読経

※御都合に合わせて、御来山下さい。

年末年始のお知らせ

● お焚き上げ(おたきあげ)

十二月三十日(金)

午前十時から十一時

前庭 六地藏前にて読経

古いお札、位牌(木・紙)、縁起物、古いお仏壇、飾らなくなった雛人形、人形、塔婆などをお持ち下さい。

※ダイオキシン等が発生する可能性のある物は、お魂を抜いてお寺で預かる場合がございます。

寒さが日々増していく折から、皆様くれぐれもお体に気を付け下さい。

